

## 平壤出張記

ERINA調査研究部研究主任 三村光弘

2009年4月22日～29日の間、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の平壤を訪問した。今回の訪問は朝鮮社会学者協会、朝鮮社会科学院等の学者との学術交流のためであった。当初は開城工業地区の参観も希望していたが、同地区の事業環境が悪化しているため、今回は見送りとなった。

### 北京経由での訪朝

これまでの訪朝では、新潟～ウラジオストク～平壤線や大阪～瀋陽～平壤線など、同日乗り継ぎができるルートを利用してきた。現在、ウラジオストク経由はスケジュール変更で同日乗り継ぎができなくなっている。また、瀋陽経由は全日空が大阪～瀋陽便を休航にしているため、同日乗り継ぎができない。そのため今回は、北京経由で訪問する

ことにした。

北京経由での訪朝の場合、ウラジオストク経由や瀋陽経由で行われているビザの空港配達サービスは利用できず、北京の北朝鮮大使館領事部でのビザ申請となる。ビザ申請は月曜日と金曜日が午前と午後、火曜日～木曜日は午後のみ受付・受領となる。この月曜日と金曜日というのは、長らく北京～平壤間を火曜と土曜の週2便飛んでいた(現在はこれに木曜を加えて週3便)高麗航空の平壤便出発の前日にあたる日である。

今回は2008年春から就航した中国国際航空(高麗航空が飛んでいない月・水・金に運行)を利用してみることにした。東京から平壤まで通しの切符が発売されており、公示運賃は11万円だが、旅行社では2009年4月現在で約9万円

写真1 北京・首都国際空港の中国国際航空チェックインカウンター



に空港使用料や燃油追加料金等が加算される。東京を4月21日に出発して、北京で1泊し、北朝鮮大使館でビザを取得してから首都国際空港に向かった。

北京・首都国際空港での中国国際航空の搭乗手続は昨年新設された第3ターミナルとなる。エコノミークラスのチェックインカウンターは便ごとに設けられており、平壤行きCA121便のチェックインカウンターの隣は、ソウル・仁川行きCA125便のチェックインカウンターであった。中国国際航空の北京発朝鮮半島行き便名は中国の朝鮮半島政策を示唆するかのように南北とも120番台が付与されており、平壤行きはCA121/122便、ソウル行きはCA123-127/124-128便、釜山行きはCA129/130便となっている。

北京～平壤線の機材はボーイング737-300型機で、定員は128人。4月22日のフライトは50人も乗っていなかった。乗客の多くは欧州やアジアからの乗り継ぎ客とおぼしき人々だった。食事時間帯を飛ばないので、ピーナッツと飲物のサービスだけだった。平壤までは1時間25分ほどのフライトだった。

### 平壤第1中学校参観

滞在中、平壤第1中学校を参観する機会があった。北朝鮮の教育体系は小学校4年間、中学校6年間に就学前1年間を含む「全般的11年義務教育」の上に大学や専門学校、就職後の再教育制度などが組み合わさった形になっている。中学校には10歳で入学し、17歳で卒業する。平壤第1中学校は、1984年から始まった北朝鮮における「秀才教育」の頂点にあるトップ校とのこと。平壤市内だけではなく、全国から試験を突破した超エリートの卵たちが学ぶ。

午後に参観したので、すでに授業は終わっており、課外活動をする生徒たちの姿を見せてもらった。10歳から16歳

写真2 平壤第1中学校の生徒たちの公演



とかなり年齢に幅があるので、まだ背が低く幼い感じの残る子供たちから、すでに大人と変わらないくらいの背丈の子供たちまでが同じ学校で勉強していた。

高学年の英語の補習班を見せてもらったが、生徒たちの英語は相当のレベルであった。先生が「英語で話しかけてみてください」とおっしゃるので、「中学を卒業したら進路はどうするのか」と質問してみたところ、「もちろん、金日成総合大学に進学します」とのことだった。「もちろん」のところが若干嫌みっぽく感じられなくもなかったが、そう答える生徒のまなざしには力があつた。

この学校がエリート校だからかもしれないが、廊下で会う生徒たちは例外なく客であるわれわれ一行に会釈をして通っていった。廊下を走っていたやんちゃな低学年の生徒たちも、急停止をして会釈をした。いろいろと悪く言われることの多い北朝鮮だが、子供たちの希望に満ちた目と態度の良さにはいつも驚かされる。

学校や学生少年宮殿の参観の最後には、生徒や子供たちによる公演があるのがおきまりだ。北朝鮮最高のエリート校だから、ここではないだろうと思っていたが、しっかり公演の席が設けられていた。案内の先生が「この4月に入学したばかりの1年生なので、まだまとまりのある公演になっていません」とおっしゃっていたが、伴奏も歌もなかなかのものだった。

### 沙里院市訪問

朝鮮人民軍創建記念日で休日の4月25日、沙里院市を訪問した。前回、開城工業地区からの帰りに沙里院市に寄って「民俗通り」という昔の街並みに似せた観光コースを簡単に見学をしたが、その時に訪問したいと思っていたマッコリ(コメを主体に麦麴で発酵させたどぶろくのような酒)

写真3 結婚記念撮影を行う軍人とその奥さん



店は訪れることができなかった。今回、それを覚えていてくれた朝鮮社会学者協会の方で再訪がなかった。

平壤市から平壤～開城間高速道路を南下すること1時間弱で黄海北道の道庁所在地、沙里院市に到着した。休日だけあって、民俗通りや隣接する公園には多くの人が集まっていた。公園には好太王碑や古墳の模造品など、朝鮮の歴史を彷彿とさせるものが多いが、考古学的に厳密な考証はなされていないようであった。

マッコリ店に行き、緑豆のチジミ（緑豆の粉を水でこねて油で焼いたパンケーキ状のスイーツ）を肴にマッコリを飲む。少し酸っぱい。味が素朴で結局500ccのどんぶりでも5杯ほど飲んだ。アルコール度数はビールと同じ位なので、それほど酔わない。ソウルで飲んだマッコリよりも味が優しかった（ソウルのマッコリは逆にキレのよい味だ）。

その後、周囲の公園を散策した。公園には何組もの軍服を着た男性とチマチョゴリ姿の女性が記念撮影を行っていた。建軍記念日ということで、多くの軍人がこの日に結婚式をしたり、記念撮影を行うようだ。

最近では北朝鮮でも結婚式の記念ビデオを作る人が多くなってきているらしく、一族郎党が集まってカメラマンの指示のもとにしきりにポーズをとり、ビデオ撮影にいそんでいた。

### 錦繡山記念宮殿と光復通り参観

滞在中、錦繡山記念宮殿を参観する機会があった。錦繡山記念宮殿は、故金日成主席の遺体が安置されている場所でもともと金日成主席が執務していた主席宮の場所を逝去後拡張して建設された場所だ。平壤市内だけでなく、北朝鮮全土から参観者が絶えない。

今回の訪問では、平壤市内の金策工業総合大学はじめ、

写真4 錦繡山記念宮殿参観記念の写真を撮る学生たち



いくつかの大学の学生たちの参観団と出会う機会が多かった。北朝鮮の大学生たちの多くは思想が堅固な家庭に生まれ育ち、その上厳しい試験をかいぐってきた学生たちが多くと言われている。参観の際にあった学生たちに共通していたのは、前述した平壤第1中学校の生徒たち同様、力のある目をしているということだった。同時に、自らがエリートであるという誇りと、その誇りに見合った働きをしないといけないという矜持を感じた。外国人の遠慮ない視線を向けられても、恥じることなく相手を見つめることのできる学生が多くいる北朝鮮は、国が厳しい国際政治的、経済的試練の中で翻弄されるとしても、それを乗り越えていける力を持った国だと思った。参観後に記念撮影の列を待つ学生たちは、仲間同士でふざけ合いながら、楽しそうに過ごしていた。彼らのふだんの生活の一面を垣間見ることができたような気がする。

平壤市の西、万景台区域にある光復通りに最近イタリア料理店が誕生したとのニュースが『朝鮮新報』ホームページで報道されていた (<http://www.korea-np.co.jp/news/ViewArticle.aspx?ArticleID=35855>)。報道によると、料理人をイタリアに派遣して実習させた本格的な店のようだ。どのような店か興味があったので、行ってみることにした。

光復通りは平壤市内で現在進行中の路面電車の軌道補修第2期工事の対象区間にあたる。そのため、側道は軌道工事中で通行できず、少し遠回りしながら、店までたどり着いた。看板には「ピザ」「スパゲッティ」と朝鮮語とイタリア語で書かれ、その下に「イタリア料理専門食堂」と朝鮮語で書いてある。営業開始時間まで少しあったので、店のまわりで散歩しながら待つ。店は100席ほどだ。営業開始まであと10分というのに誰もいない。結局時間を15分

写真5 工事中の路面電車の軌道



写真7 ハマグリのごソリン焼き



写真6 イタリア料理店の外観



すぎても店が開かないので、結局この日のイタリア料理試食は次回に繰り越しとなった。

#### 龍崗温泉訪問

龍崗温泉は、平安南道の温泉郡にある保養所を外国人にも開放している別荘形式の温泉保養施設である。施設の内容については、すでにERINA REPORT vol. 70の67～68ページで報告しているのでそちらを参照いただきたい。今回は、前回訪問の際に強風のために失敗した「ハマグリのごソリン焼き」の雪辱戦を行った。

前回のガソリン焼きで食べたハマグリは大きさが7センチ

程度のもが多く、大きすぎて大味だった。また風が強かったので、ガソリン臭が強かったが、今回は風もそれほど強くなく、ガソリン焼きは成功した。ハマグリは今回、4.5センチ程度の最上級品が手に入った。日本の経済制裁で北朝鮮から日本へのハマグリへの輸出が止まっている影響もあると思われる。12キロで32ユーロ（約4,200円）と北朝鮮の物価としては相当高い。日本に輸出されなくても、国内の余裕にある層に出回っているのだろう。日朝関係が正常化すると、ハマグリはまた日本に輸出され、国内には大きなものが出回るのかもしれない。

今回の訪朝では、このような参観を行ったほか、朝鮮社会学者協会と社会科学院経済研究所、社会科学院法律研究所の研究者と北朝鮮経済の現状や憲法改正をはじめとする立法動向など多岐にわたる意見交換を行い、世界金融危機が北東アジアに及ぼす影響について共同研究を行うことで合意した。現在、最悪の状況が続いていると言われる日朝関係であるが、このような厳しい状況の下でも、学术交流を継続し、事実に基づいた研究を進めていくことの必要性は変わらない。今回の出張中には、北朝鮮の関係者から日本に対する大変厳しい発言も出たし、こちらからも率直な意見を言わせてもらったが、どのような状況にあっても交流のともしびを消してはならないという思いは同じであることを感じた出張であった。